

BEST AVAILABLE COPY

昭 61 3. 3 発行

## 特許法第17条の2の規定による補正の掲載

昭和 53 年特許願第 132268 号(特開 昭 53- 58365 号, 昭和 55 年 5 月 1 日 発行 公開特許公報 55- 524 号掲載)については特許法第17条の2の規定による補正があったので下記のとおり掲載する。 3 ( 4 )

Int. Cl. 6	識別記号	序内整理番号
C21C 16/30		8218-4R

## 補正の内容

(1) 明細書の「特許請求の範囲」を別紙のとおり補正する。

(2) 同第9頁第7行目の「SCM 3(H<sub>2</sub>30~35)」を「SCM 3(H<sub>2</sub> 30 ~35)」と補正する。

(3) 同第10頁第12行目の「示した。」の次に「尚、本発明によれば従来のCVD法と異なり全くH<sub>2</sub>ガスを使用しないので安全生産上極めて貢献度大きい。」を挿入する。

手続補正書

昭和60年10月23日

特許庁長官 殿

事件の表示

昭和53年特許願第132268号

発明の名称

チタン化合物の被覆方法

補正をする特

事件との関係 特許出願人

住所 東京都千代田区丸の内二丁目1番2号

名称 (500) 日立金属株式会社

代表者 松野 浩二

代理人

住所 東京都千代田区丸の内二丁目1番2号

日立金属株式会社内

氏名 (300) 弁理士 高石 植馬

補正の対象

明細書の特許請求の範囲および

発明の詳細な説明の欄

補正の内容

別紙のとおり

## 特許請求の範囲

1. 炭化タングステンを主成分として、主としてコバルトで結合した超硬合金炭面にハフニウム化合物とチタン化合物の複合化合物を被覆した超硬合金。

2. 特許請求の範囲第1項において、ハフニウム化合物は炭化ハフニウム(HfC)、窒化ハフニウム(HfN)であり、チタン化合物は炭化チタン(TiC)、窒化チタン(TiN)であることを特徴とする複合化合物を被覆した超硬合金。

3. 特許請求範囲第1項において、複合化合物は(Hf・Ti)C、(Hf・Ti)N、(Hf・Ti)C・Nの組成であることを特徴とする複合化合物を被覆した超硬合金。

